

# English Garden 第76話

"Observation with me is second nature."

Conan Doyle

## 「観察は私の第二の天性だ」 コナン・ドイル

シャーロック・ホームズが最初に登場する "A Study in Scarlet(『緋色の研究』)" - 1881年刊行 - の中でホームズの言った言葉です。

この作品と次作の "The Sign of Four(『四つのサイン』)" は『シャーロック・ホームズの冒険』が評判になる前に発表されたもので、当時あまり反響は得られませんでした。ホームズとワトソンという主要人物が 詳細に描かれていて興味深い作品です。

『緋色の研究』はホームズとワトソンの出会いから 始まります。

対アフガニスタン戦争(1878-79)に軍医として参加した ワトソンは敵弾を受けて負傷した上に腸チフスにかかり、やっとの思いで故国に帰ります。しかし、親戚も友人もないため ともかくロンドンで下宿探しをはじめたところ、かつて働いていた病院の部下に出会いました。話をしているうち、病院の研究室によく来るホームズという人が たまたま下宿の相手を探しているということがわかり、さっそく病院に会いにいきました。すると、研究室で何やら実験していたホームズは「ヘモグロビン以外のものでは絶対に沈殿しない試薬を発見した」と興奮しながら話しかけてきました。ワトソンが初対面の挨拶をすると、ホームズはいきなり「アフガニスタンに行っておられましたね」といってワトソンの度肝を抜きます。表題の言葉は、後にホームズがその推理の過程を説明するときに 言ったものです。



さて、挨拶がすむとホームズはワトソンの服を引っ張って 実験台に連れていき、実験を再現するため自分の指をキリで突いて出てきた血をガラスの器の水にたらしめました。そこに白い結晶を加えると水は茶褐色になり、底にはうす茶色の沈殿ができました。これで犯罪事件の血痕の判定ができるようになったと、ホームズは有頂天です。

このように鮮烈な印象を与えて登場したホームズは、ワトソンと共にベーカー・ストリート221番地Bの下宿で、各自の寝室を持って 居間は共有という生活をはじめました。

ワトソンの観察によるとホームズは身長は6フィート(183cm)ですが、ひどくやせているので実際よりずっと高く見えます。射るような鋭い目、肉のうすいワシのような鼻、ぐっと出て角ばった顎、見るからに決断の人のようです。両手はいつもインキと薬品のシミだらけ。ふだんはもの静かで、起居も規則的、朝はワトソンが起きないうちに食事をすませて出ていき、化学実験室や解剖室にこもったり、遠くまで散歩に出かけたりしています。並外れた熱心さで研究に没頭する反面、居間の長椅子に寝たまま口もきかず、顔の筋肉一つ動かさず何日もじっとしていることもあります。

ワトソンにとってホームズは実に不可思議な人物で、その実体がなかなかつかめません。

おそらく博識である反面、まったく無知のようにも見えます(His ignorance is as remarkable as his knowledge.)

そこでホームズを査定する一覧表を作りました。それによると、化学や解剖学には驚くほどくわしく、通俗文学、特にその世紀に起きた恐るべき犯罪には精通していますが、純文学や哲学や天文学に至ってはゼロという結果になりました。これは、カーライルという名前も知らなかった、地球や月がどう動こうと関係ないと答えた、などということによります。でも、これがすぐにとんでもない誤りであることがわかり、ホームズに翻弄されるワトソンのお人好しとオッチョコチョイぶりが 露呈されることになります。

共同生活を始めた当初は誰も訪ねてきませんでしたが、一週間ほどすると、社会のあらゆる階層の人がホームズを訪ねてくるようになり、ワトソンは居間を占領されてそのたびに寝室にこもらなければなりません。ホームズの仕事について思い巡らしていたところ、テーブルの上に置いてあった雑誌の論文に 印がついているのを見つけました。読んでみると「観察力に富む人間はあらゆることを無限に知ることができる」という趣旨のものだったので、思い上がりもはなはだしいと非難しました。するとホームズは、その論文は自分が書いたもので決して誇張ではないと言い、自分はその観察力のおかげで生活している「諮問探偵(consulting detective)」であると明かします。そして、「観察は私の第二の天性だ」といって、ワトソンがアフガニスタン帰りであると推理した過程を説明します。ワトソンは医者タイプで軍人ふうに見える、顔は黒いが手首は白いから黒さは生地ではなく熱帯焼けにちがいない、病気もしたらしく憔悴している、左腕の動きが不自然なのは負傷しているせいだろう、その熱帯地とはアフガニスタンにきまっている、という具合です。この過程をたどるのには一秒もかからないといって、ワトソンを唾然とさせました。

次回も引き続きホームズについてお伝えします。お楽しみに。